



プロジェクトニュース

シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

「能力向上とは・・・キャパシティアセスメント」号

2018年8月29日号 (Vol.55)

本プロジェクトはその名のとおり、県議会職員（＝地方行政官）の地域開発能力の向上を目的としたプロジェクトです。「CDCD ってコミュニティインフラ整備のプロジェクトでしょ？」などと思われることもありますが、エボラ復興パイロットプロジェクトの実施を通じて、県議会職員は、地域開発事業実施のための知識やスキルを習得し、実践で活用する能力の向上を目指しています。プロジェクトでは、職員たちの向上した能力を把握し、わかりやすく共有する取組みとして『キャパシティアセスメント』を実施しています。

キャパシティアセスメントでは、職員個人や組織の現状の能力（＝キャパシティ）を評価（＝アセスメント）して、本来“あるべき姿”と現状とのギャップを明らかにします。本プロジェクトにおける県議会の“あるべき姿”…それは、定められた行政官としての業務を滞りなく遂行することができ、地域開発事業が適切に実施されることを指します。開発事業実施の各ステップに必要な作業を、技術的な面だけでなく、県議会組織のマネジメントや職員間のコミュニケーションといった面も重視して洗い出しました。これらのチェック項目を整理した「キャパシティアセスメントシート」に沿って定期的に県議会職員へ聞き取りを行い、県議会の業務実施能力が向上しているかどうかをモニタリングします。



キャパシティアセスメントの
聞き取りの様子

モニタリングの様子は、例えば「必要な情報を住民へ提供している」というチェック項目に関連して、県議会に設置してある掲示板を確認する、「〇〇のレポートを作成している」というチェック項目について県議会職員に聞き取りを行い、書類を確認する、といった具合です。掲示板は、書類を上へ上へと重ねて貼り付けていったことが容易に想像できる、雑然としたものもあれば、財務レポートや事業報告書が整然と並べられている県議会もあります。書類については「もちろん作成してるよ！」と棚からファイルをさっと取り出して見せてくれる人もいれば、「作成している」と答えつつも、その書類がどこにあるかわからない人もいます。

プロジェクトの前と後、1年に満たない期間では劇的な変化は見られなかったものの、以前は自らの業務について頼りなさそうに答えていた県議会職員が、プロジェクト終了時の聞き取りでは、業務実施状況についてポイントを押えつつ説明するなど、パイロットプロジェクトの実施を通じて、県議会職員としての“あるべき姿”の理解度が増していると感じました。そして、聞き取りを実施する中で「CDCDで習得したアプローチを別の事業でも実施したい」というポジティブな発言も多く聞かれ、県議会を主体とした、住民を効果的に巻き込んだ地域開発事業が今後も継続的に実施されることへの期待が膨らみました。



雑然とした→
印象の掲示板
(改善前)

